

日本語教科書におけるカモシレナイの扱いに関する実態調査

— 婉曲表現としてのカモシレナイを中心に —

崔艶鵬（神戸大学大学院生）

要 旨

本研究の目的は、婉曲表現としてのカモシレナイを中心に、日本語教科書におけるカモシレナイの扱いを調査することで、日本語教育におけるカモシレナイの扱いの一端を示すことである。対人関係で重要な役割を果たす婉曲表現は、日本語教育において指導が十分に行われていないことが指摘されている。本研究では、婉曲表現として多様に用いられるカモシレナイに注目し、日本語教科書を対象にカモシレナイの扱いを調べた。その結果、次のようなことがわかった。まず、教科書の種類にかかわらず、婉曲表現としてのカモシレナイについて、婉曲表現であることを明示しながら取り上げているものは少ない。総合教科書の場合、扱われていたとしても、特定の場面で固定した表現として取り上げる傾向にある。会話教科書では、婉曲表現としてのカモシレナイをより多くの場面で扱っているが、固定した表現として取り上げられる傾向にあるという点では総合教科書と変わらない。

【キーワード】 日本語教科書 カモシレナイ 婉曲表現 特定の場面 固定した表現

1. はじめに

命題が真である可能性がある（三宅 1992）ことを表すモダリティ形式カモシレナイ（例（1））は、特定の場面で用いられると、可能性を判断しているとはいいがたくなる。例（2）のように、断りの場面で使われている「無理かもしれない」は、カラオケに行くことの可能性について述べているのではなく、カラオケに行けないことを婉曲的に表現することで聞き手への配慮を示す。本研究では、このような対人的機能を図るための手段として用いられるカモシレナイを「婉曲表現として使用されるカモシレナイ」（以下、「婉曲表現としてのカモシレナイ」と記す）とし、例（1）のような、単に事柄の可能性を言及している「基本的な意味としてのカモシレナイ」と区別して扱う。

（1）あしたは雨が降るかもしれません。

（2）太郎：「今日、カラオケに行かない？」

花子：「明日は、バイトがあるから、ちょっと無理かもしれない。」

日本語母語話者（以下、母語話者と記す）にとって、例（2）に示すような「無理

かもしれない」が表す言外の意味、すなわち、断りの表現であることを理解するのは、それほど難しくないと思われる。しかし、曖昧表現や言外の意味の理解を困難に感じている日本語学習者（辻他 2016）にとっては理解・使用が必ずしも容易ではない。例（2）のようなカモシレナイにおいて、日本語学習者（以下、学習者と記す）は、「可能性がある」ことを表すと捉えてしまう可能性がある。それゆえに、学習者の場合、実際のコミュニケーションでカモシレナイを使用した発話の真意を誤解してしまうおそれがあり、日本語教育において、婉曲表現としてのカモシレナイについて適切な指導が必要だと思われる。

また、婉曲表現としてのカモシレナイは、適切に使えるようになれば、円滑なコミュニケーションへとつながる。例えば、衝突が生じやすい「議論」では、相手の意見に反論する前に、「そういう考え方もあるかもしれませんが、…」という表現を用いて相手の発言の一部を認めながら自分自身の意見を展開すると、相手との摩擦を避けることができる。また、「議論」に限らず、自ら発言する場合であっても、これから述べることについて聞き手から否定的に評価されそうな不安があれば、「余計なお世話かもしれませんが、…」のように、カモシレナイを用いた前置きをすることで自己防衛ができる。このような相手への配慮、自己防衛といった機能を持ち、婉曲表現として用いることができるカモシレナイを、学習者も適切に使うことができれば、日本語を用いたコミュニケーションにおいて不必要な摩擦を避けることができると思われる。

日本語教育で婉曲表現が十分に指導されていないことについては、従来の研究においても指摘されているが（黄 2004）、実際に、カモシレナイは、日本語教育において、どのように扱われているのだろうか。そこで、本研究では、日本語教育におけるカモシレナイの扱いの一端を示すべく、教育活動における欠かせない材料である日本語教科書¹⁾（以下、教科書と記す）を資料に、カモシレナイの扱いについて調査する。具体的には、①教科書においてカモシレナイはどのように導入されているのか。なかでも、婉曲表現としてのカモシレナイは導入されているのか、②婉曲表現としてのカモシレナイが導入されている場合、その導入の仕方はどのようなものであるのか、といった2点を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

日本語教育における婉曲表現としてのカモシレナイの扱いに言及しているものに、平田（2001）、川口（2005）、高木（2017）などがある。平田（2001）は、教科書・教師用指導参考書（計5冊）の分析を行い、カモシレナイは、初級レベルにおいて、基本的な意味のみの導入に留まっていると指摘している。また、中級レベルになっても、婉曲表現としてのカモシレナイを導入し練習させる教科書が少ないことを指摘し、その現状を批判している。また、川口（2005）は、市販の日本語総合教科書・文法演習

のための教科書の中から5冊を取り上げ分析し、カモシレナイが担いうる婉曲的な機能について意識的に扱っている教科書は少ないことを指摘している。そして、高木(2017 p.38)でも、「婉曲的な『ソウカモシレナイ』は中級以降でも明示的に学習項目として取り上げられていない」との指摘が見られる。

従来の研究のいずれも、ほとんどの教科書が婉曲表現としてのカモシレナイを扱っていないことを指摘しているが、総合教科書が考察対象となっている。しかし、婉曲表現は対人的配慮を表すものであり、会話で用いられやすいことを考えると、総合教科書だけでなく、話す力やコミュニケーション能力の向上を狙いとしている会話教科書についても調査が必要であると思われる。また、カモシレナイのような、基本的な意味を有しつつ婉曲表現としても用いられることがある形式は、理解、産出のいずれも難しく、ある程度まとまった内容を話せるようになる中級以上の学習者向けの教科書において扱われている可能性がある。そこで、本研究では、初級から上級までの全レベルの教科書を対象に、総合教科書だけでなく、会話教科書も取り上げ、カモシレナイの導入実態の全体像を明らかにする。

3. 研究方法

3.1 研究資料

本研究では、凡人社が発行する『日本語教科書リスト』48号(2019～2020)を参照し、その中から、考察対象とする総合教科書と会話教科書の選定を行った。ただし、長期間の品切れ、絶版状態などで入手が不可能だった教科書を除く。

総合教科書の選定にあたっては、次のような二つの基準で選定を行った。まず、会話教科書との比較考察を意味のあるものにすべく、ある特定の技能に偏っているものではなく、「言語4技能をバランスよく並行して学習することを目標としているもの」に限定する。そして、特定の学習者層を対象としたものではなく、学習者一般を対象としているものに限定すべく、朴(2022 p.27)を参考に、『日本語教科書リスト』で明記されている「技術研修生、特定の機関に所属する学生など、特定の学生層が対象となっている教科書」を調査対象から外す。また、会話教科書の選定にあたっては、ミニフレーズ、方言、オノマトペ、接客日本語のみを取り扱っている教科書、旅行用単語帳、辞典に該当する教科書を考察対象外とする。選定の結果、総合教科書65冊、会話教科書28冊が考察の対象となった。考察対象となった教科書を表1に示す。教科書のレベルは、教科書の表紙やまえがきなどで記載されているレベルに従って分類している。ただし、考察の便宜上、初中級とされていたものは初級に、中上級とされていたものは中級に分類し、初級・中級・上級の三レベルに分けている。なお、表1では、()中の表記は、本文中で言及する際の略語であり、[]は、出版社および刊行年である。

表 1 考察対象となる教科書

総合教科書 (計 65 冊)

***初級 (35 冊 (20 種))** : 『日本語初歩 改訂版』(日初歩) [凡人社, 1985] / 『総合日本語初級から中級へ』(総合初中) [凡人社, 1990] / 『Japanese for Everyone』(JFE) [学習研究社, 1990] / 『初級日本語 新装版』(初日) [凡人社, 1994] / 『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE NOTES VOLUME I・II・III 第 2 版』(SFJI・II・III) [凡人社, 1994・1995・2006] / 『語学留学生のための日本語 初級 I・II』(語学 I・II) [凡人社, 2002] / 『学ぼう! にほんご 初級 1・2』(学ぼう 1・2) [専門教育出版, 2005] / 『日本語初級 1・2 大地』(大地 1・2) [スリーエーネットワーク, 2008・2009] / 『J. Bridge for Beginners 1・2 第 2 版』(JBFB1・2) [凡人社, 2009・2010] / 『J. Bridge 新装第 2 版』(JB) [凡人社, 2010] / 『Japanese for Busy People I・II・III 第 3 版』(JFBPI・II・III) [講談社 USA, 2011・2011・2012] / 『できる日本語 初級・初中級』(できる初・初中) [アルク, 2011・2012] / 『みんなの日本語初級 I・II 第 2 版』(みんな初 I・II) [スリーエーネットワーク, 2012・2013] / 『NEJ テーマで学ぶ基礎日本語 vol1・2』(基礎 1・2) [くろしお出版, 2012] / 『文化初級日本語 I・II 改訂版』(文化初 I・II) [凡人社, 2013] / 『まるごと 日本のことばと文化 初級りかい 1・2』(りかい 1・2) [三修社, 2014] / 『まるごと 日本のことばと文化 初級かつどう 1・2』(かつどう 1・2) [三修社, 2014] / 『まるごと 日本のことばと文化 初中級 A2/B1』(まる初中) [三修社, 2015] / 『中級へ行こう 日本語文型と表現 55 第 2 版』(中級へ) [スリーエーネットワーク, 2016] / 『初級日本語「げんき」I・II 第 3 版』(げんき I・II) [ジャパンタイムズ出版, 2020] ***中級 (26 冊)** : 『総合日本語中級』(総合中) [凡人社, 1987] / 『総合日本語中級前期』(総合中前) [凡人社, 1989] / 『中級日本語』(中日) [凡人社, 1994] / 『日本語中級 J501 中級から上級へ 改訂版』(J501) [スリーエーネットワーク, 2001] / 『わかって使える日本語』(わかって) [スリーエーネットワーク, 2004] / 『文化中級日本語 I 第 2 版』(文化中 I) [凡人社, 2004] / 『学ぼう! にほんご 中級』(学中) [専門教育出版, 2007] / 『みんなの日本語 中級 I』(みんな中 I) [スリーエーネットワーク, 2008] / 『中級の日本語 改訂版』(中級日) [ジャパンタイムズ出版, 2008] / 『学ぼう! にほんご 中上級』(学中上) [専門教育出版, 2009] / 『上級へのとびら』(上級へ) [くろしお出版, 2009] / 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』(学ぼう中期) [スリーエーネットワーク, 2009] / 『改訂版トピックによる日本語総合演習 中級前期』(ト中前) [スリーエーネットワーク, 2009] / 『新・生きた教材で学ぶ中級から上級への日本語』(生きた教材) [ジャパンタイムズ出版, 2012] / 『みんなの日本語中級 II』(みんな中 II) [スリーエーネットワーク, 2012] / 『できる日本語 中級』(できる中) [アルク, 2013] / 『テーマ別中級から学ぶ日本語 3 訂版』(テーマ中級) [研究社, 2014] / 『文化中級日本語 II 第 2 版』(文化中 II) [凡人社, 2014] / 『日本語中級 J301 改訂版』(J301) [スリーエーネットワーク, 2016] / 『まるごと 日本のことばと文化 中級 1B1』(まる中級 I) [三修社, 2016] / 『まるごと 日本のことばと文化 中級 2B1』(まる中級 2) [三修社, 2017] / 『NIJ テーマで学ぶ中級日本語』(NIJ 中) [くろしお出版, 2018] / 『新訂版トピックによる日本語総合演習 中級後期』(ト中後) [スリーエーネットワーク, 2019] / 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期 第 2 版』(学ぼう前期) [スリーエーネットワーク, 2019] / 『中級日本語カルテット I』(カル I) [ジャパンタイムズ出版, 2019] / 『中級日本語カルテット II』(カル II) [ジャパンタイムズ出版, 2020] ***上級 (4 冊)** : 『上級日本語』(上日) [凡人社, 1998] / 『学ぼう! にほんご 上級』(学上) [専門教育出版, 2010] / 『改訂版トピックによる日本語総合演習 上級』(ト上級) [スリーエーネットワーク, 2010] / 『テーマ別 上級で学ぶ日本語 三訂版』(テーマ上級) [研究社, 2016]

会話教科書 (計 28 冊)

***初級 (18 冊)** : 『ロールプレイで学ぶ会話』(学ぶ会話) [凡人社, 1987] / 『初級からの日本語スピーチ 国・文化・社会についてまとめた話をするために』(スピーチ) [凡人社, 2004] / 『マンガで学ぶ日本語会話術』(会話術) [アルク, 2006] / 『日本語おしゃべりのたね』(おしゃべり) [スリーエーネットワーク, 2006] / 『日本語生中継: 聞いて覚える話し方 初中級編 1』(生中継初中) [くろしお出版, 2006] / 『会話のにほんご 改訂新版』(にほんご) [ジャパンタイムズ出版, 2007] / 『にほんご会話トレーニング: 初級から始めよう』(会話トレ) [アスク出版, 2008] / 『NIHONGO FUN&EASY I・II』(NFE I・II) [アスク出版, 2009・2018] / 『わたしのにほんご: 初級から話せるわたしの気持ち・わたしの考え』(わたし) [くろしお出版, 2011] / 『にほんご会話上手! 聞き上手・話し上手になるコミュニケーションのコツ 15』(会話上手) [アスク出版, 2012] / 『The Ultimate Japanese Phrasebook: 1800 Sentences for Everyday Use (英語版)』(TUJP) [講談社 USA, 2012] / 『わかる! 話せる! 日本語会話基本文型 88』(会話文型) [リサーチ出版, 2014] / 『どんどん話せる! 日本語会話フレーズ大特訓必須 700』(必須 700) [リサーチ出版, 2015] / 『にほんごではなそう パターンで覚えるかんたん会話』(はなそう) [ジャパンタイムズ出版, 2017] / 『PRACTICAL JAPANESE 2』(PJ2) [IBC パブリッシング, 2018] / 『キャラで学ぶ友だち日本語』(友達日本語) [くろしお出版, 2019] / 『新日本語を話そう: シェドーイング 初中級編』(新シェドー) [くろしお出版, 2020] ***中級 (9 冊)** : 『日本語生中継: 聞いて覚える話し方中〜上級編』(生中継中上) [くろしお出版, 2004] / 『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』(会話に挑戦) [スリーエーネットワーク, 2005] / 『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』(上級への道) [スリーエーネットワーク, 2005] / 『話せる日本語 360 枚のカードで学ぶ中級会話』(中級会話) [アルク, 2007] / 『日本語を話そう: シェドーイング 中上級編』(シェドー) [くろしお出版, 2010] / 『中級日本語で挑戦 スピーチ&ディスカッション』(中級で挑戦) [凡人社, 2012] / 『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』(アップ) [スリーエーネットワーク, 2013] / 『もっと中級日本語で挑戦 スピーチ&ディスカッション』(もっと中級) [凡人社, 2013] / 『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話 新版』(中から上へ) [凡人社, 2014] ***上級 (1 冊)** : 『日本語超級話者へのかけはし きちんと伝える技術と表現』(かけはし) [スリーエーネットワーク, 2007]

3.2 婉曲表現としてのカモシレナイとして扱っているもの

婉曲表現については、仁田（1992 p.7）が、「話し手は言表事態の成立が真であると認識している」、「言表事態の成立が未だ確認されていないところを有するものとして表現されている」といった二つの要件を満たすものと説明している。本研究では、基本的に、仁田（1992）での婉曲表現の定義を踏まえるが、対人的機能の観点から婉曲表現としてのカモシレナイの下位分類を述べている崔（2023a p.30）に従い、婉曲表現としてのカモシレナイを、「『可能性判断』といったカモシレナイの基本的な意味を有しながらも、ある特定の言語環境で、『対人的配慮』『自己防衛』を図る手段」として使われるものであると定義する。また、基本的な意味としてのカモシレナイとの関連性に基づいて考えると、婉曲表現としてのカモシレナイには以下の二つのタイプがある。一つ目は、事柄の可能性を表さず婉曲的な表現になるタイプであり、例（3）がこれに当たる。「はじめに」でも述べたように、例（3）での「無理かもしれない」は、事柄（カラオケに行くこと）の可能性を表さず、断りの意図を婉曲的に表現しているものである。二つ目は、例（4）のように、後述する内容をよりよく展開していくために、可能性を示しながら、後述する内容の予告、譲歩、補充をするタイプである。例（4）では、これから述べることについて相手がもつ可能性のある印象を、カモシレナイを用いてあらかじめ示している。本研究では、これら二つのタイプともに「婉曲表現としてのカモシレナイ」として扱う。

(3) 太郎：「今日、カラオケに行かない？」

花子：「明日、バイトがあるから、ちょっと無理かもしれない。」（(2)を再掲）

(4) 「余計なお世話かもしれませんが、心配であれば病院に行ったほうがいいと思います。」

また、本研究でいう「導入」とは、カモシレナイが教科書において何らかの形で取り上げられていることを指す。総合教科書の場合、意味・用法の説明など、解説までされているかどうかについては、「導入」の判定に入れておらず、カモシレナイが、文法項目として例とともに示されていれば、「導入」とみなす。会話教科書の場合、「レストランで」のような場面シラバス、「依頼を断る」のような機能シラバスなどで内容が構成されていることもあることから、「文法項目として、例文とともに示されている」ものに加えて、「場面やトピックが明示されており、カモシレナイが当該場面で使われる表現として、具体的な形式や例とともに挙げられている」場合も、「導入」とみなす。

4. 基本的な意味としてのカモシレナイの扱い

教科書における婉曲表現としてのカモシレナイの扱いについて示す前に、基本的な

意味としてのカモシレナイが教科書でどのように扱われているのかについて示す。先行研究（平田 2001、川口 2005、高木 2017）を踏まえると、カモシレナイは文法項目として初級段階で導入されることが予想される。そのため、初級総合・会話教科書を対象に、基本的な意味としてのカモシレナイの導入実態を調べた。

まず、総合教科書での導入実態について述べる。初級総合教科書では、基本的な意味としてのカモシレナイは、35冊のうち、17冊において導入されており、その導入率は5割程度に留まっているように見える。しかし、初級総合教科書は、「語学Ⅰ」「語学Ⅱ」のように、複数冊に分かれているものが多く、基本的な意味としてのカモシレナイは、Ⅱで初めて導入されていることが多かった。Ⅱで初めて導入されるということはⅠでは導入されていないことを意味する。そのため、複数冊に分かれている教科書を1種類として扱い、基本的な意味としてのカモシレナイの導入率を計算しなおしたところ、35冊の初級総合教科書は、20種類からなり、基本的な意味としてのカモシレナイは、17種類（85%）において導入されていた²⁾。これはつまり、基本的な意味としてのカモシレナイは、多くの初級総合教科書において導入されていることを意味する。

次に、会話教科書での導入実態について述べる。初級会話教科書では、カモシレナイの基本的な意味を導入していると見なせるものは、18冊のうち、3冊（『NFEⅡ』『会話文型』『PJ2』）（16.7%）のみであった³⁾。文法項目として導入されておらず、例(5)のような、他の文法項目の例文などでカモシレナイを用いている会話教科書が見られており、このような会話教科書は、7冊（『新シャドー』（会話文のみ）、『TUJP』『会話術』『会話トレ』『友達日本語』『必須700』『会話上手』）（38.9%）である。

(5) 「～か」が「～っか」に変わる

・長音（長く伸ばす音）+か → っか

また計画が変わるかもしれないから、今、全部決めなくてもいっか。

（下線は原文のまま）（『会話上手』p.26）

つまり、基本的な意味としてのカモシレナイは、初級レベルの総合教科書で導入されることが多く、会話教科書では、初級レベルであっても、別個導入されることは少なかった。

5. 婉曲表現としてのカモシレナイの扱い

5.1 総合教科書の場合

結論を先取りして述べると、基本的な意味としてのカモシレナイは、初級レベルの総合教科書で導入される傾向にあったが、婉曲表現としてのカモシレナイの場合、総合教科書では、中級レベル以降の教科書で取り上げられる傾向にあった。しかし、中

級および上級の総合教科書では、婉曲表現としてのカモシレナイは、文法項目として導入されることはほとんどなく、「議論」のような、特定の場面において用いられる表現として取り上げられる傾向にあった。これらの特定の場面については、例文をあげながら後述する。

婉曲表現としてのカモシレナイの導入実態については、「カモシレナイは婉曲表現として明示的に導入されているのか」と「婉曲表現としてのカモシレナイの導入の仕方はどのようなものであるのか」といった2点を考察した。その結果、総合教科書における婉曲表現としてのカモシレナイは大きく、それが婉曲表現であると明示されている場合（①）と、そうでない場合（②）とに二分できる。また、導入の仕方に注目してみると、基本的な意味としてのカモシレナイと並べて扱っている場合（A）と、同様の場面のもとで同じように使用することのできるその他の表現とともに列挙されている場合（B）に分けることができる。扱い方の違いに基づいて教科書を分類すると、次の表2のようになる。30冊⁴⁾の中級および上級の総合教科書のうち、婉曲表現としてのカモシレナイが扱われていたのは、表2に示すように、10冊のみであり、総数の3割程度にすぎない⁵⁾。

表2 総合教科書における婉曲表現としてのカモシレナイの扱い

導入		教科書名（略語で示す）（計10冊）
①婉曲表現であることが明示されている場合	A. カモシレナイの基本的な意味とともに提示	なし
	B. ほかの類似した表現とともに列挙	『まる中級2』
②婉曲表現であることが明示されていない場合	A. カモシレナイの基本的な意味とともに提示	『文化中Ⅰ』
	B. ほかの類似した表現とともに列挙	『中級日』『学ぼう前期』『文化中Ⅱ』『できる中』『上級へ』『J501』『カルⅡ』『ト上級』

まず、「①婉曲表現であることが明示されている場合」は、例（6）に示す『まる中級2』のみであった。なお、例文中における下線は筆者による。また、紙幅や説明の都合上、一部省略したり、例文中に番号や記号を振っていることがある（以下同様）。

（6）自分の考えを婉曲に伝える

ただ、そこは電気もないし、それに、虫もいっぱいいるので、慣れてない人は、ちょっと巖しいかもしれません。（後略）（『まる中級2』 pp.69-70）

次に、「②婉曲表現であることが明示されていない場合」の例としては、例（7）のようなものがある。例（7）は、基本的な意味としてのカモシレナイと合わせて、婉曲表現としてのカモシレナイが提示されている例である。

(7) a. 「可能性があること」の形で、意見や感想を述べる

I A: 外国語を勉強するためには、その言葉が話されている国へ行くのがいちばんいい方法ですね。

B: そういう考え方もあるかもしれませんが、私はそうとも言えないような気がするんです。

II 人間にとって生活が便利になりすぎるのは、よくないことかもしれない。

(7) b. 可能性があることを表す

雨が降るかもしれないから、傘を持っていこう。(後略) (『文化中 I』p.180)

例(7)は、『「可能性があること」の形で、意見や感想を述べる』カモシレナイ(7a)と、『可能性があることを表す』カモシレナイ(7b)の二つにわけて説明をしている。しかし、いわゆる婉曲表現として示していると思われる例(7a)の例文の中には、Iのように婉曲表現であることが状況的に判断が可能なものだけでなく、IIのように婉曲表現として扱うには、状況の説明が不十分であるものも含まれている。また、例(7a)のI、IIのいずれも、『「可能性があること」の形で、意見や感想を述べる』のような説明では、同じ項目において示されている例(7b)「可能性があることを表す」カモシレナイとの違いが明示的ではない。学習者にとっては、その違いの理解が難しいように思われる。

次に、「B. ほかの類似した表現と合わせて提示している場合」の例としては、例(8)のようなものが挙げられる。「②婉曲表現であることが明示されていない場合」としては、このようなタイプのものが多い。婉曲表現としてのカモシレナイを扱っている教科書10冊のうち、8冊(80%)がこのようなタイプのものであった。

(8) 人の意見を聞いて、反対の意思を示し、自分の意見を言う

・それはそうかもしれませんが、/・それはちょっと違うんじゃないでしょうか。

・そうでしょうか。/・それはそうですが、(後略) (『文化中 II』p.223)

また、総合教科書においては、婉曲表現としてのカモシレナイが取り上げられる場面および形式にも特徴が見られた。それは、例(7)～(8)を見てもわかるように、特定の場面で、固定した形式として導入される傾向にあることである。婉曲表現としてのカモシレナイが導入されていた場面と、ともに提示されていた例文を示すと次の表3となる。表3からわかるように、婉曲表現としてのカモシレナイは、ほとんどが、「議論」といった場面で取り上げられている。また、形式面に注目すると、「ソウカモシレナイガ」(『中級日』『文化中 I』『文化中 II』『上級へ』『J501』『ト上級』)、「～カモシレナイ。シカシ(デモ)」(『学ぼう前期』『できる中』『カル II』)を例として提示している教科書が多いことがわかる。

表3 総合教科書における婉曲表現としてのカモシレナイの内訳

教科書名 (計10冊)	場面/トピック	挙げられている例文 (計12例)
『中級日』	意見を述べる	うん、それはそうかもしれないけど…
『学ぼう前期』	討論：反対の時	確かに、そういう面もあるかもしれません。 でも私は…
『文化中Ⅰ』	「可能性があること」の形で、意見や感想を述べる	そういう考え方もあるかもしれませんが、私は そうとも言えないような気がするんです。
『文化中Ⅱ』	同意しない 質問の仕方：前置きを言う	そうかもしれないけど… もしかすると常識的なことかもしれませんが…
『できる中』	相手の考えを受け入れながら、自分の意見を述べる	確かに、～（という）考え/意見…もあるか もしれません。しかし、
『上級へ』	相手の意見を認めながら、 違う考えを言う	それはそうかもしれませんが、 私は…と思います。
『J501』	友人の関心事や意見を聴いて 思ったことを話す	そうかもしれませんが、 ほんとはにそうでしょうか。
『まる中級2』	自分の考えを婉曲に伝える	ちょっと厳しいかもしれません。
『カルⅡ』	反論を述べる	確かに～かもしれません。しかし、～と思 います。
『ト上級』	反対する 発言の前置き	そうかもしれませんが、私は、と思 います。 ご存じかもしれませんが、

「議論」では、とりわけ反論を行う際に、前もって「ソウカモシレナイガ」などを使うことで、聞き手が言ったことにまずは賛成する（部分的賛成や見せかけの賛成も含む）態度を示すと、後述する反論を和らげることができ、対人的配慮を示すことができる（平田 2001）。しかし、総合教科書で導入されている「ソウカモシレナイガ」については、「反論」「不同意」「意見を述べる」といった「使える場面」の提示に留まっているものが多かった。例（9）のように、反論する際、「ソウカモシレナイガ」には、「相手の意見を（部分的に）認める」といった機能が働くことまで言及している教科書は『中級日』『できる中』『上級へ』の3冊のみであった。

（9）相手Bの意見を認めながら、違う考えを言う

それはそうかもしれませんが、私は、____と思います。（後略）（『上級へ』p.328）

5.2 会話教科書の場合

会話教科書において、婉曲表現としてのカモシレナイは、総合教科書に比べて比較的多様な場面において、多様な使い方で導入されていた。会話教科書の場合、総合教科書とは異なり、初級（『会話術』、『生中継初中』）での導入も見られた。初級まで含めると、今回調査した会話教科書の28冊のうち9冊（32.1%）において婉曲表現としてのカモシレナイが導入されていた⁶⁾。中級以降の教科書に絞って見ると、中級以降

の会話教科書では、7割の教科書において、婉曲表現としてのカモシレナイが導入されていた（10冊のうち7冊）。総合教科書の場合、5.1節でも述べたように、中級以降の教科書でのみ導入されており、導入していた教科書も、中級および上級教科書全体の約3割程度にすぎない。それに対して、会話教科書では、初級教科書でも導入が見られ、また、中級以降の教科書に限定すると、総合教科書に比べてはるかに多くの割合の教科書で導入されているという特徴が見られる。

表4は、会話教科書における婉曲表現としてのカモシレナイの導入実態をまとめたものである。会話教科書における婉曲表現としてのカモシレナイも、それが婉曲表現であると明示されている場合と、そうでない場合とに二分できる（表4では「明示の有無」）。また、導入の仕方に注目すると、基本的な意味としてのカモシレナイとともに提示されている場合（表4では「導入の仕方A」）、ほかの類似した表現と合わせて列挙されている場合（「導入の仕方B」）、単独に提示されている場合（「導入の仕方C」）に分けて考察することができる。

表4からわかるように、会話教科書では、婉曲表現としてのカモシレナイは、基本的な意味としてのカモシレナイとともに提示されていることがなく、単独で提示さ

表4 会話教科書における婉曲表現としてのカモシレナイの内訳

教科書名 (計9冊)	場面/トピック	挙げられている例文 (一部を抜粋) (計16例)	明示の 有無	導入の仕方		
				A	B	C
『会話術』	①ソフトな主張	東京の方がいいかもしれない。	有	×	×	○
	②提案に 反対するとき	それは、 ちょっと～かもしれませんね。	無	×	○	×
『生中継初中』	①提案	～の方が便利かもしれませんね。	無	×	○	×
『会話に挑戦』	①断り方	難しいかもしれない	有	×	○	×
	②反論するとき	そうかもしれませんが…	無	×	○	×
『中級で挑戦』	①意見を言う (弱い主張)	規制をもっと厳しくした方がいいかもしれ ません	有	×	○	×
	②反対意見	ああ、確かにそうかもしれませんが	無	×	○	×
『もっと中級』	①反論する	確かに～（略）かもしれませんが、	無	×	×	○
『中から上へ』 (別冊)	①前置き	さっきの繰り返しになっちゃうかもし れないけど、…	無	×	○	×
『生中継中上』	①依頼を断る	今日中には、 できないかもしれませんね。	有	×	○	×
	②提案を述べる	みんなが集まってから始めたほうがい いかもしれないですね。	無	×	○	×
	③提案に 反対する	それは、 ちょっと難しいかもしれないです。	有	×	○	×
『アップ』	①許可しないと ほめかす	うーん、 ちょっと難しいかもしれませんね。	有	×	○	×
	②謝る（断る）	悪いんだけど、 今回はちょっと無理かも。	無	×	○	×
	③助言する (目上へ助言)	電池パックを交換したほうがいいかも しれないですね。	有	×	○	×
『かけはし』	①反論、問題点 をあげる	確かにそういうふうに見えるかもしれ ません。でも…	無	×	○	×

れていることが2冊において見られた。また、総合教科書と同じように、会話教科書においても、ほかの類似した表現ともに列挙される傾向にあった（9冊のうち、以下の7冊。『生中継初中』『会話に挑戦』『中級で挑戦』『中から上へ（別冊）』『生中継中上』『アップ』『かけはし』）。さらに、会話教科書において、婉曲表現としてのカモシレナイが明示的に導入されていたのは28冊のうち5冊（17.9%）であった（『会話術』『会話に挑戦』『中級で挑戦』『生中継中上』『アップ』）。また、表4の「場面/トピック」と「挙げられている例文」に注目すると、婉曲表現としてのカモシレナイは「議論」「断り」「助言・提案」といった3場面で16例が導入されており、そのうちの7例は婉曲表現であることが明示されていた。カモシレナイが婉曲表現であると明示されている例に注目すると、カモシレナイは、断り表現として使われる「（否定的な意味を有する語）カモシレナイ」と、助言として使われる「（～ハウガ）Xカモシレナイ」で導入される際に、婉曲表現であることが明示される傾向にあることがわかった。

断り表現として使われる「（否定的な意味を有する語）カモシレナイ」の例を、次の例（10）に示す。

（10）「依頼を断る」（フォーマルな場面）

今日中には、できないかもしれませんね。（後略）（『生中継中上』 p.55）

「（否定的な意味を有する語）カモシレナイ」は、28冊のうち3冊において（『会話に挑戦』『生中継中上』『アップ』）取り上げられていたが、『会話に挑戦』では、「日本人ははっきり断る言い方をあまりしない人が多いようだ（中略…）『難しいかもしれない』などという表現は、断り表現だと考えるといいでしょう」（p.37）といった、日本語によるコミュニケーションに見られる特徴についてまで触れているものがあつた。

また、「助言・提案」の表現としてカモシレナイが挙げられている例は、次の例（11）のようなものである。『会話術』『生中継初中』『生中継中上』『アップ』『中級で挑戦』の5冊において、「（～ハウガ）Xカモシレナイ」の形で取り上げられていた。

（11）グレッグは会社員です。先輩の長倉に話しかけられました。

長倉：「この携帯、充電してもすぐ電池がなくなっちゃうんだけど、壊れてるのかしら？」

グレッグ：「だったら、電池パックを交換したほうがいいかもしれないですね」

（後略）（『アップ』 p.94）

「助言・提案」の表現として、カモシレナイを取り上げている教科書のうち、「（～ハウガ）Xカモシレナイ」が使われる理由を言及している教科書があつた（『アップ』

『会話術』『中級で挑戦』)。「相手との上下の差が大きかったり、よく知らない相手であるほど、より間接的な表現が使われる」(『アップ』 p.95)、「自分の考えをはっきり言うことを避けるときに使う」(『会話術』 p.37)、「意見を言う際に相手に失礼な印象を与えないように言い方の強さを調整することが必要」(『中級で挑戦』 p.66) のような説明がされている。いずれも、間接的で強くない言い方が必要であり、そのための表現の一つとして、「(～ハウガ) Xカモシレナイ」を挙げている。「(～ハウガ) Xカモシレナイ」は、「～ハウガX」と比較することで、カモシレナイが果たしている役割が、断定を避けるものであることが明確になる。しかし、「(～ハウガ) Xカモシレナイ」が扱われている教科書では、「(～ハウガ) Xカモシレナイ」は、助言に使える他の表現とともに扱われる傾向にあり、例 (12) のように、「(～ハウガ) Xカモシレナイ」の対比となる「～ハウガX」と並べて挙げているのは、一冊(『アップ』)のみであった。

(12) 電池パックを交換したほうがいいですね。

電池パックを交換したほうがいいかもしれないですね。→断定を避ける表現
(後略) (『アップ』 p.95)

また、本研究では、とりわけ人間関係に関わる会話能力の育成を図る会話教科書では、婉曲表現としてのカモシレナイが扱われやすいのではないかと推測した。しかし、各々の会話教科書のまえがきなどに書かれている、当該教科書が目指すものに関する記述の確認を行ったところ、必ずそうでもないといった結論に至った。「失礼にならない話し方、相手への配慮」(『上級への道』)、「よい人間関係が保てるような伝達の仕方」(『学ぶ会話』) のような、人間関係に関わる会話能力の育成を図ることを学習目標としてあげている教科書5冊のうち、婉曲表現としてのカモシレナイが導入されているものは2冊(『アップ』『かけはし』)のみであった。一方で、本研究の調査では、「いくつかの場面で、よく使用されるフレーズを知ること」(『会話術』)、「場面に応じて適切に話す能力をつけること」(『生中継中上』) のような、場面に応じた会話能力の育成を図ることを学習目標としてあげている教科書では、婉曲表現としてのカモシレナイが扱われる傾向にあった(4冊のうち、4冊)。

5.3 まとめ

婉曲表現としてのカモシレナイの導入実態について明らかになったことをまとめると、以下ようになる。

まず、総合教科書の場合、婉曲表現としてのカモシレナイを導入している教科書は少なかった(全65冊のうち10冊、15.4%)。導入していたとしても中級以降であり(30冊のうち10冊、33.3%)、婉曲表現としてのカモシレナイの機能に関する説明

はほとんどされていなかった。また、総合教科書における婉曲表現としてのカモシレナイは、「議論」での導入に偏っており、「ソウカモシレナイガ」のような固定した表現で導入される傾向にあった。さらに、「議論」のような、ある特定の場面において導入される際に、使われる表現の一つとして、ほかの表現とともに導入される傾向にあった。次に、会話教科書の場合、婉曲表現としてのカモシレナイは、全28冊のうち9冊(32.1%)において導入されており、初級でも導入が見られた。中級以降に絞ると、総合教科書と比べて、より多くの割合で導入されていた(10冊のうち7冊、70%)。ただし、会話教科書でも、婉曲表現であることが明示されている場合は少なかった(全28冊のうち5冊、17.9%)。また、総合教科書と同様に、特定の場面において使われる表現の一つとして、ほかの表現とともに導入されることが多かった。一方で、会話教科書では、総合教科書でも見られた「議論」のほかに、「断り」「助言・提案」での導入も見られた。しかし、会話教科書においても、固定した表現で導入される傾向にあり、「断り」では「(否定的な意味を有する語)カモシレナイガ」、「助言・提案」では「(～ハウガ)Xカモシレナイ」という表現で導入される傾向にあった。

6. おわりに

本研究では、総合教科書と、会話教科書を取り上げ、婉曲表現としてのカモシレナイを中心に、カモシレナイの導入実態に関する調査を行った。その結果、導入の仕方には違いがあったものの、総合教科書と会話教科書のいずれにおいても、婉曲表現としてのカモシレナイの導入が見られていることがわかった。

扱いの共通点から見れば、総合教科書と会話教科書のいずれにおいても、婉曲表現としてのカモシレナイを固定した表現で導入する傾向が見られた。総合教科書では、「議論」において「ソウカモシレナイガ」が、会話教科書では、「ソウカモシレナイガ」に加え、「助言・提案」において「(～ハウガ)Xカモシレナイ」、「断り」において「(否定的な意味を有する語)カモシレナイ」が提示されていた。しかし、日本語母語話者の使用実態に関する調査では、断り場面においては、「大丈夫かも」のように、カモシレナイが、必ずしも否定的な意味を有する語を伴うわけではないことや、断り表現そのものとして使われていないこともあることが指摘されている(崔 2023b)。婉曲表現としてのカモシレナイを指導する際には、使われる場面と、その際に使われやすい形を合わせて示すのは有効的であると思われる。一方で、学習者には、特定の場面に用いられる特定の表現のように捉えられてしまう可能性がある。実際に、婉曲表現としてのカモシレナイの各使用法はそれぞれ異なる場面で使われているように見えるが、基本的な意味としてのカモシレナイとの関連性や話者意図も含めて考えると、各用法は密接につながっているように思われる。例えば、教科書において、助言の表現として提示されている「(～ハウガ)Xカモシレナイ」と、断り表

現として提示されている「(否定的な意味を有する語) カモシレナイ」は、互いに異なるように見えるが、「可能性が残る」言い方で相手への配慮を示すという、カモシレナイの基本的な意味に基づいた婉曲的な言い方であるという点では共通している。学習者に婉曲表現としてのカモシレナイを教える際、このような、基本的な意味としてのカモシレナイとの関連性や、婉曲表現としてのカモシレナイの各用法のつながりを意識した分類を示すことができれば、学習者の婉曲表現としてのカモシレナイへの理解も促せるのではないだろうか。この点に関わる検証は今後の課題としたい。

また、本研究では、婉曲表現は、会話において必要とされるものであるという前提のもとで、会話文など、話し言葉に見られるものを対象に調査を行った。しかし、総合教科書である『カルⅠ』では、「確かに～かもしれない。しかし…」が「反対の意見の一部を認めてから主張を述べる。説得力を持たせることができる」(p.189) のような説明が見られ、論理的に文章を書くためのポイントの中で、カモシレナイが提示されている。このようなカモシレナイを、コミュニケーションにおける対人的な機能として働く婉曲表現と同様に扱うことは難しいと思われるが、「議論」で用いられるカモシレナイとも、機能において共通性が見られるように思われる。書き言葉における、このようなカモシレナイの機能に関する考察は今後の課題とする。

注

- 1) 教科書は、学習者の学習に大きな影響を与える要因であると同時に、日本語教師にとっても重要な参考資料であると思われる。教科書におけるカモシレナイの扱われ方が、日本語教育現場での現状を全面的に反映しているとは言えないかもしれない。しかし、日本語教育におけるカモシレナイの扱いの一端を示すことが可能であると考え。
- 2) 『中級へ』『総合初中』『かつどう』のような、基本的な意味としてのカモシレナイが文法項目として導入されていなかった教科書であっても、カモシレナイは読解文などで使われていることが見られた。
- 3) 「種類」で計算すると、17種類のうち、3種類(17.6%)において導入されていた。
- 4) 中級レベル以上の教科書も、『文化中Ⅰ』『文化中Ⅱ』のように複数冊に分かれているものがある。しかし、婉曲表現としてのカモシレナイはいずれにおいても導入される可能性があるため、中級レベル以上の教科書については、「種類」ではなく、「冊」として数える。
- 5) また、婉曲表現としてのカモシレナイは導入されていると言い難いが、教科書にある会話文で、例(1)のように、婉曲表現としてのカモシレナイが使用される文を挙げている教科書が見られた。このような教科書は、30冊の中級・上級総合教科書のうち、11冊(『総合中前』『文化中Ⅰ』『みんな中Ⅰ』『中級日』『上級へ』『文化中Ⅱ』『できる中』『まる中級1』『まる中級2』『カルⅠ』『カル2』)であった。

(1) 留学で気をつけるべきことは？

バク：「(…前略) せっかくお金をかけて留学しているのに母語で話す人がいるのは非常に残念です。(…中略) お金や時間をむだにしなければ、日本語で話すようにすべきです」

ゴミス：「(…前略) 自分の国の人としか話さないのはもちろんよくないことかもしれませんが、時には自分の国の人と一緒に時間を過ごすのもいいと思います。そうすれば、遠い国で生活していてもホームシックにならずに済みます」
(『カル I』 p.103)

- 6) 会話教科書においても、総合教科書と同じように、導入されているとみなされないものの、婉曲表現としてのカモシレナイが使用される文を挙げている教科書は見られた。このような教科書は、28冊のうち、6冊 (『TUJP』『会話に挑戦』『中級で挑戦』『もっと中級』『中から上へ』『シャドー』) であった。

参考文献

- 川口さち子 (2005) 「日本語教科書におけるカモシレナイ—『文脈』と『機能』による教材分析—」『聖学院大学論叢』17 (3)、37-48
- 黄鈺涵 (2004) 「日本語教育における『ようだ』の婉曲表現としての機能分類について」『早稲田大学日本語教育研究』5、155-167
- 崔艶鵬 (2023a) 「日本語学習者の『カモシレナイ』の使用実態について—婉曲表現としての『カモシレナイ』を中心に—」『国際文化学』36、26-42
- 崔艶鵬 (2023b) 「『断り』の場面で使われる婉曲表現としての『カモシレナイ』について」『日本語教育 (韓国日本語教育學會)』103、115-129
- 高木祐輔 (2017) 「『ソウカモシレナイ』の婉曲的用法—対話における機能に注目して—」『一橋日本語教育研究』5、31-40
- 辻周吾・影浦亮平・石井香織・安達万里江 (2016) 「留学生の日本語コミュニケーションにかかわる諸問題」『国際言語文化学会日本学研究』1、1-12
- 仁田義雄 (1992) 「判断から発話・伝達へ—伝聞・婉曲の表現を中心に—」『日本語教育』77、1-13
- 日本語教材リスト編集委員会編 (2019) 『日本語教材リスト』48、凡人社
- 朴秀娟 (2022) 「日本語教科書における副詞の扱いについて」『神戸大学留学生教育研究』6、23-47
- 平田真美 (2001) 「『カモシレナイ』の意味—モダリティと語用論の接点を探る—」『日本語教育』108、60-68
- 三宅知広 (1992) 「認識的モダリティにおける可能性判断について」『待兼山論叢 日本学篇』26、35-47